THE KILLER WHALE TIMES

2020 年度　全日本大学選手権大会号

皆さんいかがお過ごしでしょうか。タイムス班の田畑です。

去る 10 月 22 日から 25 日に第 47 回全日本大学選手権大会が行われました。商大からは昨年と同じく男子舵手付きフォアと女子シングルスカルの 2 クルーが出場し、女子シングルスカルの田畑が 2 年連続で準決勝に進出、男子舵手付きフォアも健闘しましたが、敗者復活戦敗退となりました。

コロナ禍で開催も出場も直前まで不確定なまま練習を重ねてきましたが、こうして大会で漕ぐことができ、本当に良かったです。また、今大会は動画で中継配信されていたこともあって、いつも以上に多くの方々にレースを観ていただき、ご声援を頂くことができました。現役にとって大変励みになりました。心から感謝申し上げます。

インカレを最後に 4 年目は引退し、新体制となります。今後世の中がどうなっていくのかは全く分かりませんが、商大ボート部は変わらず創意工夫を凝らしながら練習を重ねていってくれるはずです。今後とも変わらぬ応援よろしくお願いします。

RACE RESULTS

○男子舵手付きフォア
　C:西谷昇馬(4)　S:荒井隼人(4)　3:根間大輔(3)　2:岩谷旭(2)　B:善積建太(3)

予選

> Race No: 9

発艇時刻: 10/22 09:34　　**組別:** 予選E組

順位	クルー	500m	1000m	1500m	2000m	レ	Qualify
1	大阪府立大学	01:40.58	03:24.53	05:08.58	06:52.73	2	→Semi-Final
2	京都大学	01:40.80	03:27.35	05:10.43	06:54.66	3	
3	小樽商科大学	01:48.38	03:38.45	05:27.03	07:17.22	5	
4	関西大学	01:44.45	03:36.35	05:26.66	07:17.63	6	
5	学習院大学	01:47.62	03:38.77	05:29.99	07:17.86	4	
						1	

敗復

> Race No: 55

発艇時刻: 10/23 09:10　　**組別:** 敗復C組

順位	クルー	500m	1000m	1500m	2000m	レ	Qualify
1	同志社大学	01:38.03	03:21.49	05:07.77	06:51.61	3	→Semi-Final
2	京都大学	01:40.24	03:26.60	05:13.09	06:58.66	4	→Semi-Final
3	広島大学	01:42.09	03:31.65	05:22.47	07:11.18	5	
4	名古屋工業大学	01:43.96	03:33.31	05:23.53	07:11.76	6	
5	小樽商科大学	01:46.97	03:38.34	05:29.75	07:22.09	2	
						1	

フォアの蹴り出し前のミーティング。常に明るい雰囲気なのが伝わるでしょうか。

○女子シングルスカル
　田畑七奈(4)

予選

Race No: 46

発艇時刻: 10/22 14:56　　**組別:** 予選C組

順位	クルー	500m	1000m	1500m	2000m	レ	Qualify
1	田畑 七奈 (小樽商科大学)	02:01.01	04:09.64	06:22.77	08:33.64	5	→Semi-Final
2	林 美沙 (藤女子大学)	02:07.81	04:20.19	06:34.02	08:47.64	3	
3	鈴木 真歩 (仙台大学)	02:03.28	04:14.79	06:32.06	08:50.08	4	
4	成田 風歌 (東北大学)	02:07.58	04:27.14	06:48.50	09:12.10	2	
						1	
						6	

準決勝

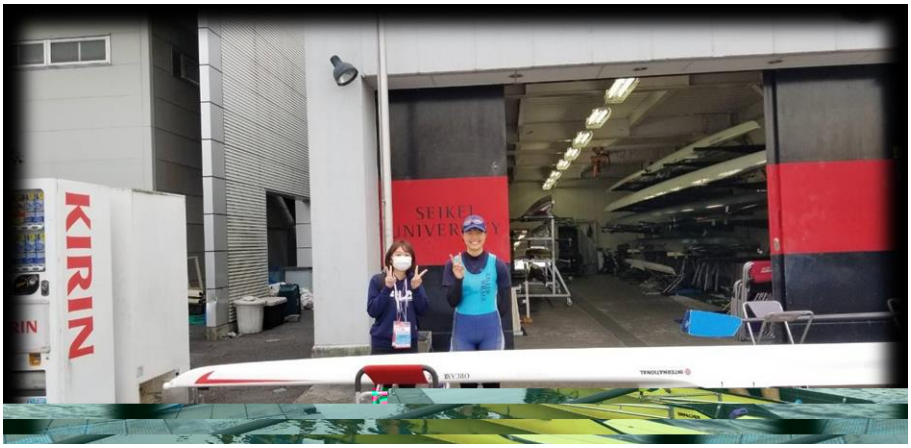
Race No: 130

発艇時刻: 10/24 13:36　　**組別:** 準決D組

順位	クルー	500m	1000m	1500m	2000m	レ	Qualify
1	山本 百華 (同志社大学)	02:05.22	04:16.48	06:29.12	08:43.75	5	→Final A
2	渡辺 杏 (法政大学)	02:09.72	04:24.79	06:37.79	08:48.05	4	→Final B
3	田畑 七奈 (小樽商科大学)	02:08.34	04:21.63	06:37.56	08:52.85	3	
4	李 聖美 (東京大学)	02:07.89	04:24.52	06:44.15	09:06.28	2	
						1	
						6	

初めて新艇を出す
田畑(4)。
バランスを取りやす
く、とても乗り心地の
良い素敵な艇をありが
とうございました！

予選レース勝利後の
田畑(4)と齋藤(4)



フォアのレース
後、オールを運ぶ
久光(3)。
たくさんサポート
してもらいまし
た。ありがとう。

それから、今まで一緒に頑張ってきた同期とはこれで最後となります。少し寂しいですが、彼らと大学生活を共にできて本当に良かったと思います。

僕もあと一年、悔いがないよう過ごしたいです。

応援有難うございました。

〇田畑七奈(4)

準決勝レース後、新艇「七星」とのお別れを名残惜しそうにする田畑(4)

昨年に続き、今年もシングルスカルで出場させていただきました。
コロナ禍で異例のシーズンとなりました。昨年よりも練習時間は圧倒的に足りず、取り柄のパワーも多くが失われた状態でのスタートでした。にもかかわらず、インカレを迎えた時はこの 4 年間で最高のコンディションだったと感じています。恐らく、最終日に行きたい気持ちだけは常に強く持っていたこと、身体の痛みにほとんど悩まされなかったこと、並べの機会を増やしたこと、「最後の」インカレになること。そういったことが重なって質の高い練習ができていたのだと思います。特に良きライバルであった 3 年目の久光と事あるごとに2000ttを並べてもらっていたこと(最後まで勝てませんでしたが…)、同じ種目に出場するエネルギッシュな藤女子大学の後輩の存在、谷津監督をはじめとした頼れる方々からのアドバイスは本当に大きいものでした。
そしてインカレ本番。予選は 1 着で通過。予選全体で 8 位と知り、自分の中でも最終日への期待が高まっていました。しかし、準決勝では最後の 500mに差し掛かったあたりで抜かれてしまい、3 着で敗退。昨年と全く同じ結果です。正直なところ、この文章を書いている今でも悔しさは色濃く残っています。ですが、最後に大舞台で強い選手たちと並べられたことも事実です。たくさんの人に応援され、支えられてもらえたからこそ、ここまで来ることができました。また、学内外に関わらず、切磋琢磨できる仲間も多くできました。振り返ると本当に周りに恵まれた 4 年間でした。この場をお借りして、お世話になった全ての皆さんに深く感謝申し上げます。
これからは頼もしい後輩たちが良い結果を報告してくれるはずです。今後とも商大ボート部をよろしくお願いします。

〇根間大輔(3)

インカレの M4＋で 3 番を漕がせて頂きました。
応援して下さっている皆様、まずは夢の舞台であったインカレに出させて頂き、ありがとうございました。
不甲斐ない結果とはなりましたが、貴重な経験となりました。

9 月中旬、ようやく大艇が解禁され、M4＋でインカレを目指すことが決まりました。
殆どスイープ経験の無い 3 人が乗るフォアで、どうなることやらと心配ではありましたが、何とか形になりレースに望むことができました。
個人的な反省としては、まずレース前のウォーミングアップ。
予選では蹴り出してから艇上で殆ど動くことが出来ず、ガチガチに冷えて固まった状態で望むことになってしまいました。
陸でもっとしっかりアップしておくべきでした。
技術面では、水を掴む、押して、手放す、という基本的なことがハイレートでは上手く実行できませんでした。
もっともっと 1 回の低レートのパドルに集中しなければなりません。
幸いなことに、いい感触は掴めてきているので、今後は更に磨きをかけていきます。
来年は最後の年です。
インカレに再び出場し、なんとしても結果を残したいです。
コロナ禍で先が見えない状況ではありますが、やれることをしっかりとやれば結果は着いてくるはずです。
今後も応援よろしくお願いします。

〇善積建太（3）
今回私はフォアのバウとして初めてインカレに出場いたしました。
新型コロナウイルスの影響で短い期間内にフォアを組んでいたこともあり、インカレに対してかなり不安でしたが、ボート部に関わってくださっていた様々な方々のご協力もあり、無事インカレを終えることができました。誠にありがとうございます。
そしてこのインカレはとても重要な刺激を得ることができました。本州のクルーとの差を思い知らされる形になってしまいましたが、普段道内だけの世界で漕いでいる私達にとって、とてもいい刺激になりました。
悔しい結果で終わってしまったので、本州のクルーに追いつけるよう、残された 1 年間全身全霊で練習に励みたいと思います。

〇岩谷旭（2）
今回舵手付きフォアの 2 番を漕がせて頂きました、2 年の岩谷です。今年 1 年はコロナの影響でかなり激動の 1 年でありました。この歴史的な年のインカレに出て対抗フォアに乗れるのは嬉しかった反面、スイープを本格的に練習したのが 9 月になってからだったので、インカレまで 2 ヶ月も無くかなり不安が大きかったです。練習が進むにつれ、下手くそな自分が乗るより他の人が乗った方が艇速も出て船も安定するのではないかと思い、船を漕ぐことがただきついだけになってしまった時もありました。

主将の荒井（4）を船役に。
左から根間（3），岩谷（2），善積（3），西谷

しかしいざインカレに出場すると得られたものも大きかったと思います。やはり直接レースに出ることによって、自分達には何が足りないか、何をするべきか具体的な課題が見えてきたと思います。例を挙げるとキリがないのですが、やはり技術、体格、筋肉量、そしてやはりエルゴタイム。最後のエルゴに関しては如実にその差が現れたと思います。これらの足りないものは今に始まったことではなく、自分が入学した時から、更にはもっと前から課題になっていたことであったと思います。やはり１から練習への取り組み方や強度を見直す必要があると痛感しました。根本を変えないとインカレ準決勝はかなり厳しいものになると身をもって体感しました。
今はコロナ禍で厳しい時代です。トレーニングをするにも制限がつきます。現時点でいつも通り冬練が行うことは難しいでしょう。だからこそ今が戸田との差を縮める絶好の機会であり、ここで頑張れるかどうかがあと２年のボート人生を大きく変えると思います。
今はまだ人数も少なく小さな部活ですが、人数を増やし活気が増え、インカレ準決勝常連のチームになれることを目指していきますので、これからもご支援の程よろしくお願い致します。

インカレ前最後の練習後の１枚。
「シングルのクルー紹介の写真、いつも一人じゃアレなので盛り上げますよ！！」と言われ....。
笑いをこらえるのが大変でした。

谷津監督と４年目。
ここまでやって来られました！

引退する４人。左から齋藤、田畑、荒井、小野寺。

後輩からプレゼントを貰って喜ぶ４年目小野寺と荒井。

監督兼ヘッドコーチ報告

監督　谷津法彦(平成 5 年卒)

☆全日本大学選手権(インカレ　10/22～25)について

北大戦から 3 週間を待たずにインカレが開催されました。もともとインカレは 9/10～13 の予定でしたが、コロナ禍を受けて 5 月頃から日本ボート協会が全国の大学ボート部へのアンケート、意見交換会を行い、日程や大会規模の再検討を行ってきました。オリンピック延期に加えて早々に国体、マスターズの中止が決まる中、もともと全日本新人戦が行われるはずだった 10/22～25 に戸田にて無観客の 2,000m レース開催という事に決まったのが 7/27 でした(全日本新人、オッ盾を併催という意見もありましたが、大会規模抑制の観点からこれらも中止となりました)。

お盆明けに練習を再開した我々商大ボート部ではインカレ出漕の為にこの時点で越えなければならない壁が二つありました。
一つ目は大学から許可が出るかどうか。活動再開に当たっては大会出場は北海道内だけに限定されていたのです。そこで我々は 7 月に大学向けに嘆願書を作成、インカレが最終目標であること、新型コロナ感染対策がしっかり施される大会であること等を訴えました。それが功を奏し、インカレ出場 OK のお墨付きを頂いたのが 8 月の末でした。
二つ目の壁は日本ボート協会の「クルー数制限」案です。今回は人の密集を避ける為に当初日ボは各種目のエントリー数は 20 クルーまで、1 日の大会参加者を 800 人までに抑えるという方針を打ち出しました。エントリー数がそれを超える場合エルゴの 2,000m タイムの記録順にクルー数を絞る事になる予定でしたが、実際のエントリー数がそこまで多くなかった為、今まで通りエントリーした全クルーが出漕可能(かねてよりエルゴタイムが出漕要件になっていたシングル、ダブル、ペアを除いて)となりました。この通達が出たのが 9 月 14 日。ここに来るまでインカレに出られるかどうか分からないまま練習をしていたのですが、残り 1 か月ちょっとのところでやっと目標が現実になった訳です。4 年目のラストレースがインカレに決まってホッとしたと同時に気合いも入りました。

男子舵手付フォア、女子シングル共に北海道選手権、対北大戦を経て逞しく成長してくれたと思います。
フォアに関しては荒井主将を除いた 3 人のスイープ経験の浅さがバランス等にはっきり出ていましたが、茨戸最後の 2,000m トライアル等ではバランスも良く、高レートになるスタート・スタ力でもスムーズな動きとリズムが見て取れました。北大戦の 1 週間後に北大と並べた 1,500m×4 本では落ち着いて一本一本離していく様が痛快でした。小野寺の代役として急遽コックスを務めた西谷(4)の活躍も見逃せません。休部明けで 2 年振りの舵引きでもブランクを感じさせない存在感でクルーをリードしてくれました。ずっとクルーの雰囲気もいい状態で本番に臨みましたが、まだ勝ち進める技術レベルに達していない事に気付かされました。高レートでの掴み、艇を運ぶ感覚もそうですが、普段のライトワークからちょっとした細かい事に気付けるかどうかにもっと改善の余地があると思います。茨戸でのベストタイムは 7 分 3 秒くらいでしたが、やはり 6 分 50 秒は出してからでないと準決勝進出は今後も厳しいでしょう。

最後のインカレ挑戦となった女子シングルの田畑は見事に予選一着で 2 年連続となる準決勝進出を決めました。タイムは予選全 29 クルー中 8 位、最終日進出に期待を持たせる好位置です。
北大戦の後、腰の不調もあったとのことですが、しっかり練習量を積んでこれた成果だと思います。課題だったキャッチからの力の伝え方もかなり改善され、本人の感覚・艇速・外からの見た目が一致するようになってきました。ウォームアップでいい感じで滑っても 2,000m となるとなかなか再現出来ないという不安定要素もありましたが、自分の見立てでは準決勝に進んだ昨年以上のレベルにはなっていると思いました。長い自粛期間を終えて練習を再開した頃は落ちてしまったパワーや微妙なブレードワークなどをどこまで取り戻せるか心配になるレベルでしたが、そこからは期間が短い分密度の高いトレーニングで補って見事な復調を見せました。
迎えた準決勝では苦手としていたスタートで全クルーに出遅れたものの、気にしないでコンスタントで勝負しようと練習を重ねてきた

通りの展開に持ち込んで一気に 2 ハイ抜き、第 2 クオーターでは 1 艇身強を付ける 2 位。しかしラスト 500m 手前で後半勝負の法政大に追い付かれ、スパートでの再逆転を狙うも 4 秒差で無念の 3 着となりました。特にまずいレースをしたという訳ではありません。法政大にはもともと予選タイムで 3 秒負けていましたし、1 着の同志社大は敗復上がりとは言え敗復タイムはその 2 人を上回る 8 分 27 秒（敗復全クルー中トップ）で完全にギアが入った状態での準決、素直に相手が強かったと言うしか無いと思います。本人の悔しさは如何ほどかと思いますが、最終日進出にあと少しというところまで迫った力漕で戸田に与えたインパクトは大きいですし、それを後輩部員達に見せくれた貢献度は計り知れません。間違いなく小樽商大ボート部の歴史に語り継がれるアスリートです。自分も教わる事が多く刺激を受け続けてきましたので、田畑に関するタイムス原稿をもう書く事が無いのかと思うと軽く“ロス”を感じているくらいです。

2 月末の春合宿を最後に一切の部活動が禁止になり、各自出来るトレーニングをこなしながら 3～7 月が過ぎ、お盆明けに練習再開が認められ、そしてインカレまで、いろんな制約がある中で皆やるだけの事はやったと言っていいでしょう。いつもの年がマラソンだとすると今年は 100m 走を駆け抜けたような感覚です。ちなみに部活動に参加が許されているのは部員と顧問の先生だけで、監督は今でも参加禁止のままなのです。万が一茨戸で見つかってもただの 10B ですよみたいな顔をしてようと思っていました（最近ブログの更新が少なく、書いていてもどこか他人事のような書き方なのは一応バレたらまずいと考えての事です）。

各大学でも練習再開のタイミングはバラバラで、私大を中心に日大、中央大、慶応、早稲田、法政大、日体大などは 6 月くらいからバリバリ漕ぎまくっていたようですが、必ずしもそう言った大学だけが優勝したかというとそうでも無く、同志社大、東北大、仙台大、京大、一橋大など再開も遅く制約の多かった大学の活躍も目立ちました。つまりは工夫と努力がものを言うという当たり前の事に気付かされました。

その反面エントリーはしたものの結局大学から対外試合への参加許可が下りない、練習再開が遅かった為レースまで仕上げるのが間に合わない等の理由で泣く泣く棄権したチームもあったと聞きます。もしインカレが当初の予定通り 9/10 だったとしたら商大も出漕を見送っていたかも知れません。商大はまだ恵まれた方だったのかも知れません。それでも部員達の頑張りはシーズン当初の自分の想像を遥かに超えて素晴らしいものでした。先の見通せない中、これと言ったケガや事故も無く無事に戦い抜いた漕手だけでなく、応援に徹してくれた小野寺、マネージャーの齋藤も含めて、よくやった！充実したいい仕事でした！と言ってやりたいです。

さて 2021 年に向けて。
フォアで 3 番を漕いだ根間が新主将としてクラブを引っ張ります。現在 3 年目は男子漕手 3 名、2 年目は男女漕手各 1 名、そして秋に入部してくれた 1 年目漕手は男女各 2 名。4 年目の西谷が残ってコックスを務めます。この原稿を書いている 11 月 2 週目で例年通り茨戸は艇庫閉めを終えました。
大学の体育館が自由に使えない上に未だに講義の大半がリモートで行われる為、札幌住みと小樽住みで別々に練習する事にしています。誰かの家にエルゴを置かせてもらい、どこかの体育館やジムで筋力トレーニングといった変則的な冬練習になりそうです。

今シーズン何が一番残念だったかと言うと、戸田や茨戸で OBOG の皆様方にお会い出来なかった事、これに尽きます。来年こそこの状況が収束して部員達の活躍とボート競技の素晴らしさを皆さんと共有出来る事を願って止みません。2021 年もまたよろしくお願い申し上げます。

ご意見、ご要望などございましたら下記アドレスまでお願いします。
n_tanitsu@yahoo.co.jp

差し入れありがとうございました！

荒井(4)のご両親からアミノバイタル、田畑(4)のご両親からお菓子を頂きました。

ありがとうございました！！！

後援会費について

後援会費は、原則として１年で¥10,000 の定額です。¥10,000 以上の金額をいただいた場合も、後援会費としてお預かり致します。後援会費はほぼ全額が現役部員の活動援助金として充てられますので、できる限り多くの皆様のご協力をお願い致します。（尚、後援会会則に則り、満年齢 65 歳以上の会員の方・既婚女性の会員の方は原則後援会費は免除扱いとなっています。）

後援会費は、**日本信販の自動引落サービス**をご利用できます。できる限り多数の OB の方々がご加入下さいますようお願い致します。ご加入方法及び引き落とし口座の変更につきましては、現役会計(廣中にいな)か担当の平成 10 年卒 佐藤公洋までお問い合わせください。振込先はこちらとなっています。

ゆうちょ銀行　　店名･店番:908
口座番号:1532438 （普通預金）

北洋銀行　　なまえ:オタルシヨウカダイガクソウテイブ
店番:341
口座番号:3657349
取引店:小樽中央支店

連絡先：　会計　２年目　廣中　にいな
TEL:　080－1896－7158
MAIL：　ouc.rowing2021@gmail.com

✿個人情報保護の取り組み✿

後援会会員の方々には、小樽商科大学漕艇部の活動に必要な情報として、お名前・連絡先・勤務先などの個人情報をご提供いただいております。小樽商科大学漕艇部では、ご提供いただきました個人情報につきましては以下のように取り扱います。

・会員の方々の個人情報の利用については、小樽商科大学漕艇部の活動(後援会誌『しゃち』や『Killer Whale Times』の発送・配信など)の範囲内での利用に限定します。

・ご自身に関する情報の訂正･削除などのご依頼があった場合は、特別の理由がない限り対応をいたします。

・会員の方々の情報保護が確実に実施されるための継続的な改善を行い、適切に管理いたします。

ご意見やご提案等がございましたらお問い合わせください。今後ともよろしくお願いいたします。

連絡先：　タイムス班
１年目 清野　綾花
TEL:　090-4871-4723
Mail: rowing1937@yahoo.co.jp